

2021年9月1日
株式会社 ZTV

ローカル5Gを活用した港湾内安全管理に向けた実証実験の開始について

株式会社 ZTV（本社：三重県津市、代表取締役：田村欣也、以下「ZTV」）は、三重県鳥羽市において、2021年12月より、ローカル5Gを活用した港湾分野における実証実験（以下「本実証実験」）を開始します。本実証実験は、総務省の「令和3年度 課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」に選定されたものとなります。

港湾は多様な産業活動・国民生活を支える重要な物流・生産基盤であると同時に、人々が集う交流拠点でもあります。特に資源小国である日本において、輸出入を支える港湾は非常に重要な施設です。昨今では、老朽化した船舶のデジタル化対応、船員（熟練者）の高齢化、人材不足と他業種同様の問題が深刻化しており、早急に業務量の軽減や安全な運航への取組みが求められています。喫緊の課題としては、着岸時の港湾での事故対策、停泊している船の安全監視が不十分、労働力不足などがあります。本実証実験では、港湾・船舶関係事業者もコンソーシアムに加わり、ローカル5GおよびAI技術を活用することでこれらの課題解決を目指します。

●実証実験概要

三重県鳥羽市池ノ浦湾内にローカル5G基地局を整備します。海上におけるローカル5G電波伝搬状況の測定を行うと共に、鳥羽商船高等専門学校の練習船「鳥羽丸」、艇庫、棧橋等に設置する高精細カメラの映像をローカル5G経由で監視センターまで伝送し、AI解析を行います。

課題と解決方法

- ① 港湾内における安全な航行や着岸に必要な情報の収集
→ 港湾内航行中船舶に対する「港湾内映像およびAIによる船舶位置情報（操船支援ダッシュボード）」と「船舶俯瞰映像（フライングビュー）」の提供
- ② 停泊中の船舶やその周辺の十分な安全監視
→ 高精細映像＋AI映像解析により停泊中の船舶およびその周辺の異常を自動検知
- ③ 港湾内の着岸管理業務の労働環境改善
→ 船舶の着岸確認、記録を高精細映像＋AI映像解析により自動化

●本実証実験に参加するコンソーシアムメンバー一覧

株式会社ZTV、独立行政法人国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校、
シンクレイヤ株式会社、日本電気株式会社、沖電気工業株式会社、株式会社ティーブイエスネクスト、
株式会社アラヤ、株式会社地域ワイヤレスジャパン、株式会社グレープ・ワン、日本ケーブルテレビ連盟、
協同海運株式会社、株式会社東洋信号通信社、三重県、四日市港管理組合

以上、14 団体・事業者

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社ZTV 新事業推進部 真弓

bizdev@ztv.co.jp